

「ギリシア人の女」

マルコの福音書 7:24～30

はじめに

聖書の記述にはすべて何等かの意味があります。そしてそれらはすべて神のご計画と、その完成である「神の国」を指し示しているというのが私の結論です。今日の箇所は、イエシュアのみもとに一人のギリシア人の女性がやって来て懇願するという出来事です。彼女には幼い娘がいましたが、その娘が悪霊にとりつかれていたため、イエシュアに助けを求めてやって来たというものです。結果的に彼女の娘は癒されるのですが、そこに至るまでの内容、イエシュアの、またギリシア人の女性の言動には、一体どのような意味があるのでしょうか。神のご計画の視点から、今日もご一緒に見てまいりましょう。

1. ツロ

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:24 イエスは立ち上がり、そこからツロの地方へ行かれた。家に入って、だれにも知られたくないと思っておられたが、隠れていることはできなかった。

まずイエシュアは、「立ち上がり…ツロの地方へ行かれた」とあります。ヘブル語で「立つ」ことをクーム(קום)と言いますが、この言葉は本来、襲いかかって殺す、という意味合いで使われた言葉です。

【新改訳 2017】 創世記

4:8 カインは弟アベルを誘い出した。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。

アダムの息子カインは、弟アベルを「襲いかかって」殺しました。ここに聖書で最初のクームがあります。また「ツロ(צור)」という地名には「敵、仇」という意味があり、これらのことから「イエスは立ち上がり、そこからツロの地方へ行かれた。」という記述には、イエシュアは敵に襲いかかり、これを打ち倒す、滅ぼすという意味があり、これはすなわち世の終わりに、イエシュアが地上に再臨され、敵である悪魔、サタンとそれに従うすべてのものを撃ち滅ぼす、という神のご計画が「型」として表されていると考えられます。そしてその後にイエシュアはご自分がお選びになった者たち、すなわちイスラエルの民とそれにつながる異邦人(教会)とともに「神の国」をお建てになることが次の「家に入って、だれにも知られたくないと思っておられたが、隠れていることはできなかった。」という節には表されていると考えられます。「家」バイト(בית)とは本来、あのノアの箱舟の中、部屋を指し示した言葉でした(創世記 6:14)。かつて全地上を覆い尽くした大洪水、その滅びから免れたのはこのバイトに入ったものたちだけでした。「神の国」は、救い主イエシュアによって救われた者たちだけが入ることができる、まさに神のバイト「家」です。ユダヤ人たちは今日でも神殿のことをバイト(定冠詞をつけてハ・バイト)と呼んでいます。やがてイエシュアは彼らの王、イスラエルの王として、神殿に入られます。しかしこのご計画は、今はまだユダヤ人たちには隠されています。しかしやがて明らかにされ、目に見える現実として必ず成就します。そ

の事実がこの「だれにも知られたくないとっておられたが、隠れていることはできなかった。」という記述の中には表されているのではないかと考えられます。このように、一見何の変哲もないただの情景描写のように見える箇所にも、神のご計画は表されている、正確には隠されている、奥義として秘められていると考えられます。

2. ギリシア人

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:25 ある女の人が、すぐにイエスのことを聞き、やって来てその足もとにひれ伏した。彼女の幼い娘は、汚れた霊につかれていた。

7:26 彼女はギリシア人で、シリア・フェニキアの生まれであったが、自分の娘から悪霊を追い出してくださいようイエスに願った。

ツロに来られたイエシュアの足もとに、一人の女性が来てひれ伏しました。彼女は「ギリシア人」であったとあります。この事実もまた単なる偶然、たまたまではありません。なぜならこのツロとギリシア人について、このような預言があるからです。

【新改訳 2017】 ヨエル書

3:1 「見よ。わたしがユダとエルサレムを回復させるその日、その時…

3:4 **ツロ**とシドン、またペリシテの全地域よ。おまえたちは、わたしにとって何なのか。わたしに報復しようとするのか。もしわたしに報復しようとしているなら、わたしはただちに、速やかに、おまえたちへの報いをおまえたちの頭上に返す。

3:5 わたしの銀と金をおまえたちが奪い、わたしのすばらしい財宝をおまえたちの神殿へ運び、

3:6 ユダの人々とエルサレムの人々をギリシア人に売って、彼らの領土から遠く離れさせたからだ。

3:7 見よ。わたしは、おまえたちが彼らを売ったその場所から彼ら呼び戻して、おまえたちへの報いをおまえたちの頭上に返し…

この預言はイスラエルに、すなわち神に敵対したツロをはじめとする国々に対する神の報復が預言されたものです。かつてツロは、イスラエルの王がダビデやソロモンであった頃は同盟国、友好関係にあった国でした。しかしやがてこの関係を破り、イスラエルの金銀財宝を奪い、そしてイスラエルの民を「ユダの人々とエルサレムの人々をギリシア人に売って、彼らの領土から遠く離れさせた」のです。（この事実に対する神の報復が紀元前 332 年、ギリシアのアレキサンドロス大王によってツロは完全に滅ぼされ、成就しました。）ですからこの**ツロとギリシア人の結びつきには、イスラエルの民が「彼らの領土から遠く離れさせ」られ、**国を失う、離散の民となる**という事実が指し示されていると考えられます。このヨエル書に預言された「見よ。わたしがユダとエルサレムを回復させるその日」とは、今日のイスラエル、王のいない共和制国家を指すのではなく、究極的には神の御子メシアによる王国を指します。それはイエシュアが地上に再臨され、神に敵対するすべてのものを滅ぼす時に成就します。この時、世界中に散らされていたイスラエルの民、ユダヤ人たちは、「神の国」の民としてイエシュアのみもとに集められます。つまり「ある女の人が、すぐにイエスのことを聞き、やって来てその足もとにひれ伏した。」という出来事に**

はその事実が、神のご計画が「型」として表されていると考えられます。今日も多くのユダヤ人はイエシュアをメシアとして認めてはいませんが、やがて終わりの日には、彼らの目が開かれ、この女の人がしたようにイエシュアの「**足もとにひれ伏**」すようになることが表されていると考えられます。

2. 幼い娘

このツロにいたギリシア人の女性が、やがてイエシュアのみもとに集められる離散の民イスラエルを表す「型」とであるとするならば、この女性の「**幼い娘**」とは、イスラエルに結びつく異邦人、私たち教会の「型」でなくて何でしょうか。この娘は「**汚れた霊につかれていた**」とあります。「汚れる、汚す」という言葉の概念がヘブル語の持つ本来のものと、私たちのそれとでは大きく違うことを前回、前々回のメッセージで詳しくお伝えしました。「汚す」と訳されるヘブル語のターマー(נִמְטָ)には本来、イスラエルに異邦人が結びついて一つの民になるという事実が指し示されているのです(創世記 34:5)。そのような概念でこの「**幼い娘は、汚れた霊につかれていた。**」という事実を見るならば、ここに私たち教会が表されており、私たちがイスラエルに結びつく存在であるということが表されていると考えることができます。

このように、ギリシア人の女性とその幼い娘の中には、神のご計画におけるイスラエルの民と、それに結びつく異邦人、私たち教会の存在が「型」として表されていると考えられます。この事実を踏まえて次の記述を見てみましょう。

3. 子どもたちと小犬

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:27 するとイエスは言われた。「まず子どもたちを満腹にさせなければなりません。子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのは良くないことです。」

7:28 彼女は答えた。「主よ。食卓の下の小犬でも、子どもたちのパン屑はいただきます。」

イエシュアはたとえを語られました。イエシュアのたとえ話はすべて「神の国」についてのご計画、奥義です。すなわち「**子どもたち**」はイスラエルの民を指し示し、「**小犬**」は私たち教会を表していると考えられます。つまり今日の箇所¹に記された記述には、イスラエルとそれに結びつく教会という「神の国」のご計画が二重になって表され、強調されているのです。ここでイエシュアは子どもと、そして犬とを用いてたとえを語られましたが、これにも意味があると考えられます。

【新改訳 2017】 出エジプト記

11:7 しかし、**イスラエルの子ら**に対しては、**犬**でさえ、人だけでなく家畜にも、だれに対してもうなりはしません。こうして【主】がエジプトとイスラエルを区別されることを、あなたがたは知るようになります。

これは「犬」という意味のケレヴ(כֶּלֶב)が最初に使われた箇所ですが、この「**犬**」が「**イスラエルの子ら**に対して」「**人だけでなく家畜にも、だれに対して**」すなわちイスラエルのすべて、イスラエルの全存在を恐れ敬うものとして描かれているのです。そしてそれはすなわち神である「【主】が…**イスラエルを区**

別されること」を認める、受け入れること、すなわち神の御心、そのご計画に従うことを意味しています。このように、イエシュアのたとえられた「小犬」とは、イスラエルに対する神の選び、ご計画を理解して認め、恐れをもってこの事実を受け入れる教会を表していると考えられます。今日、私たち教会はこのイスラエルの存在を軽視、もしくは否定する傾向にあります。しかし聖書は、イエシュアはこのように何度もこの事実を強調しておられるのです。

4. 悪霊は出て行く

【新改訳 2017】 マルコの福音書

7:29 そこでイエスは言われた。「ここまで言うのなら、家に帰りなさい。悪霊はあなたの娘から出て行きました。」

7:30 彼女が家に帰ると、その子は床の上に伏していたが、悪霊はすでに出ていた。

7:25 だけは「汚れた霊」となっていました。それ以降は「悪霊」ヘブル語でシェード(טש)と言い換えられています。この言葉は紛れもなく悪霊、神に敵対する悪魔サタンの存在を指し示し、さらに偶像、異教の神々をも指し示した言葉です。

【新改訳 2017】 申命記

32:17 彼らは、神ではない悪霊どもにいけにえを献げた。彼らの知らなかった神々に、近ごろ出て来た新しい神々、先祖が恐れもしなかった神々に。

「神の国」にこれらの入る余地はありません。つまり神ではないものに仕え、聞き従う偶像礼拝者も存在しません。「イエスは言われた。」とあるように、イエシュアによって、その御言葉によって神の敵は全て完全に追い出されます。それが「悪霊はあなたの娘から出て行きました。」また「悪霊はすでに出ていた。」という二度繰り返されるように記され、強調して表された神のご計画です。このように、この記述、出来事には、「神の国とは、悪魔であるサタン、悪霊、神に敵対するものが全く存在しない世界である」ということが表されていると考えられます。それはイエシュアによる完全なる支配、そしてイスラエルに敵対、対抗する勢力の一切ない世界、それが神のご計画の完成である「家」、「神の国」であるということを表していると考えられます。

イスラエル、この存在を抜きにして神のご計画を語ることは絶対にできません。私たち教会は、このイスラエルによって祝福、統治される国に、やがて入ろうとしているのです。これを否定、拒絶することはすなわち悪霊、神に敵対するものと見なされます。どうか、わからない、難しいと言ってこの事実から目を背け、心を閉ざさないでください。私たちが信じ、礼拝している神は、「イスラエルの神」であるということをご重視していただくことを強くお勧めします。このイスラエルを知るといことは、神を知ることと同義であると言っても過言ではありません。ですからどうか、ぜひこれからも、このイスラエルを通して神を知ることが求めてください。御霊の助けがありますように。